

特別寄稿

JANET クラブメンバーから FB ニュース 100 号に寄せて

JH1HRJ・WR6Y・ZL3JP 大家万明

この度は FB ニュース 100 号の発行、誠にありがとうございます。JANET ロールコールのメンバーに紹介したところ、沢山の方からお祝いや近況報告などの記事をお送り頂きました。創設初期から関わっておられた N2JA 他 OM 諸氏や最近のネット運用で活躍されている W6OPQ 他のメンバーからも、JANET についての熱い思いが寄せられました。今回は FB ニュース 100 号記念へ JANET メンバーからのお祝いのメッセージという形で、皆さんから頂いた記事を纏めて寄稿させていただきます。

私自身も JANET の皆さんにはロールコールや飲み会などのオンサイトミーティングで大変お世話になっており、毎回 FB ニュースでも皆さんの近況を読ませて頂くことを楽しみにしています。100 回続けるということは大変な努力のたまものであり、これからもハムへの情報提供のメディアとしてぜひ継続されることを期待しております。30 年ほど前に平塚の丘の上に自宅と念願のタワーを持つことができ、海外出張でお会いした JANET の方々とオンエアでお会いするのを楽しみにしてきました。北米方面に開けたロケーションのお陰で、毎週日曜の朝の JANET ネットワークでコンディションが不安定な時などは、コントローラの W6OPQ 丸さんのオペレーションを、JA1PIG 白井さん、JR2PAU 永山さん、JH4IFF 右遠さんなどと一緒に関わりサポートもさせて頂くようになりました。また、どこに居ても JANET に参加できるように、千葉の実家にもセカンドシャックを作ってアンテナを設置したり、移動運用のために無線中継車のお下がりを手に入れて、移動先からも HF のアンテナを上げられる設備を用意しました。無線で繋がらない場合もネットに参加できるように Web ミーティングの仕掛けを利用するなど、時代のお陰でいろいろな楽しみ方が可能です。これからは、皆さんと JANET を楽しみ、また FB ニュースにも新しい情報を提供できればと考えています。



写真 1. (左上) JH1HRJ 平塚市自宅のシャック。(右上) JH1HRJ 平塚市自宅のアンテナ。(左下) JH1HRJ 千葉県いすみ市のセカンドシャックのアンテナ。(右下) JH1HRJ の移動用無線車。

以下、寄稿頂いた皆さんの記事を順番に紹介させていただきます。初めに、米国 Santa Cruz Mountain から毎週 JANET ロールコールのネットコントロールを担当されている W6OPQ 丸英之氏から、また KN6RJ 坂本正彦氏、JR2PAU 永山智士氏、JR4PMW 河野俊一氏、JA3DO 塩崎章氏からも、FB ニュース 100 号に対するお祝いと JANET への感謝の言葉が寄せられました。また、JA1BRK 米村太刀夫氏、JA1PIG 白井五郎氏、JE1BQE 根日屋英之氏からは、海外運用や JANET の思い出について、さらに JG1GWL 杉本賢治氏、JK1PZZ 嶋田和人氏、JH3OII 中村千代賢氏、JA7AUM 石戸谷正晴氏からは、JANET 創設時の思い出や JANET NEWS などの情報が寄せられ、N2JA 塚本葵氏からも創設当時の思い出や経緯など当時の関係者しか知らない情報含めて貴重な内容を頂きました。以下、順に皆様からの寄稿をご紹介させて頂き、最後に「海外運用の先駆者達」の筆者 JA3AER 荒川泰藏氏に締め括って頂きます。

■ 1. W6OPQ・JG10PQ 丸英之氏

FB ニュース 100 号、おめでとうございます。私自身は、1974 年、中学 3 年のときに「電話級」のライセンスで東京都練馬区にて開局、はじめて 21MHz で W と英語で QSO できた時の興奮は今でも忘れられません。その後高校の時に世田谷区に引っ越し、念願のタワー・キット (10mH) を自分で起ち上げ、QSO を楽しんでいました。その後の引っ越しでアンテナも上げられず、ごくたまに 2m のハンディー機で QRV する程度、局免は更新したのですが、ほぼ QRT 状態で、自然廃局になっていました。仕事で 1993 年からフィリピン、1994 年からはアメリカにいますが、アマチュア無線の運用には到達しませんでした。2013 年にバイエリアの日本人無線クラブを発見、米国のライセンスを取得して開局、日本のコールサインも復活することができました。JANET にも参加させていただき、日本・ヨーロッパと安定した QSO がしたい・・・とタワーが建てられる山の中の場所に引っ越し、その後ロールコールの NC もさせて頂いています。



写真 2. (左)W6OPQ のシャックから、JANET のネットコントロールをする丸英之氏と、(右) そのアンテナ。

FB ニュースで最近の情報を楽しく読むことはもちろんですが、「海外運用の先駆者達」の記事で、OM 諸氏のご活躍・ご苦労話を読むたびに、「なぜ、あの時に無線をつづけていなかったのか・・・」と後悔するばかりです。JANET を通じて知ることができた OM 諸氏の当時のお話しを、毎月まるで自分がその場にいるような気持ちで、わくわくしながら拝読させて頂いています。これは今後の後輩諸氏のためにも、とても貴重な資料になると思っています。まだ、再開局してから、たったの 8 年目ですが、今回は長い付き合いになっていくだろうと感じています。何事も続けていくことが大切であり、また、難しいことでもあると思うのですが、FB ニュースも月刊で 100 号、8 年以上になる訳で、今後とも長く続いていくことを切望いたします。



写真 3. (左) 米国にて、左から W6OPQ 丸英之氏、NW6UP 賀川正人氏、W6DHH 高橋輝夫氏、KN6RJ 坂本正彦氏 (2014 年)。(右) 電通大 OB と東京にて、左から JH1HRJ 大家万明氏、JH1BSJ 芝山仁氏、JA1CIN 三木哲也氏、W6OPQ 丸英之氏、JR7GDU 高橋真之氏 (2019 年)。

■ 2. KN6RJ・JR6MTY 坂本正彦氏

荒川さん、そしてFB News 関係者の皆様、FB News100号記念、おめでとうございます。FB Newsの「今月のハム」や「海外運用の先駆者達」ではお世話になりました。毎号のFB Newsの記事はいつも楽しく読ませて頂いております。アマチュア無線をやってきて良かったことは何と言っても人との出会いです。無線をやっていると日本中、世界中、何処でもすぐに友達の輪がひろがります。この友達の輪はプライベート、ビジネスを問いません。一口にアマチュア無線家と言っても、その楽しみ方は多岐にわたり、また職業、年齢も千差万別、そして、このハムのネットワークは直接の利害関係を持たないため永く継続することができます。携帯電話など無かった学生の頃、単純に車同士で連絡が取れるようになれば旅も楽しくなるだろうと思って取得したアマチュア無線、当時 アメリカくんだりまで来て無線をやっているなどは想像だにすることもありませんでしたが、無線が人生を変え、その楽しみも倍、いやそれ以上の人との出会いと喜びを与えてくれた事に感謝しています。



写真4. (左)ホームシャックでのKN6RJ坂本正彦氏と、(右)モバイルシャックでのKN6RJ坂本正彦氏。

■ 3. JR2PAU・VR2AN 永山智士氏

FB ニュース 100号おめでとうございます。記念記事にあたって、私のハム半世紀の中でVR2AN 香港での思い出の中から一つ書いてみたいと思います。香港では日本人クラブ文化部のアマチュア無線クラブVR2JCに所属していました。毎月一回クラブに集まり、香港駐在の日本人無線家とクラブステーションを運用していました。その他の活動として、ローカルハムクラブ局HARTSとの交流、ジャンボリーの通信訓練の手伝い、子供たちにラジオ製作教室を開き、科学への興味をもってもらう事など活動していました。その中でも忘れ難い思い出に、非常通信訓練があります。毎年一回、中波AMの周波数をOFTA(香港特別行政区通信事務管理局)に申請、許可をもらい、一般のラジオで受信レポートをもらっていました。クラブ員の各無線局が自分の家で受信しているほかに、小学校などにも協力をお願いしておりました。当然、香港市民の方々の中でもラジオを聞いている人もいて、その中で、ある香港市民の方から、日本のアマチュア無線家が香港市民の為にこのような活動をしていることは素晴らしい事だと、匿名で今後の活動に生かしてほしいと多額の寄付を頂いたことにクラブ員一同感激したものでした。アマチュア無線家が今後も市民の為に無線を通じて貢献できれば嬉しいです。ていることは素晴らしい事だと、匿名で今後の活動に生かしてほしいと多額の寄付を頂いたことにクラブ員一同感激したものでした。アマチュア無線家が今後も市民の為に無線を通じて貢献できれば嬉しいです。

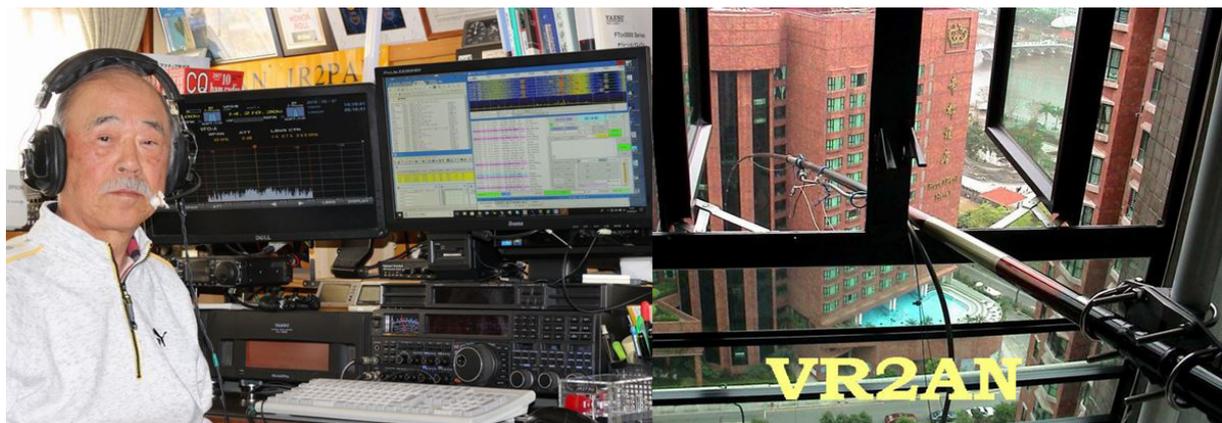


写真5. (左)ホームシャックにてJR2PAU永山智士氏。(右)香港時代のVR2AN永山智士氏の釣り竿アンテナ。

■ 4. JR4PMW・9M2KE 河野俊一氏

-JANET クラブのご紹介-

先ず FB ニュース 100 号おめでとうございます。私のマレーシアでの 9M2KE の運用や、オーストラリアでの VK6BHK の運用は「海外運用の先駆者達」で紹介して頂いた事がありますし、毎月の発行を楽しみに拝見しています。

さて、携帯電話やインターネットなどいろんな媒体が目まぐるしく発達して、私達はその恩恵を沢山受け便利な社会になってきたのは事実ですが、自ら発する電波で国内外の見知らぬ仲間とお喋りしたりデータ通信するのも、小さい頃にラジオを夢中で聞いた時のようにまた楽しいものです。中でも海外の仲間と交信する事は、まるでその国へ行った気分になったわくわく感さえ覚え、更に手を伸ばし、海外から直接運用して交信する事はまさにワンランクアップの気分ですが、これは経験した者にしか味わえない不思議な魅力でしかありません。

JANET クラブはこの海外運用経験者の集まりで、お互い運用した国々・地域を超えたグローバルな情報交換を行っている集まりです。そして最も大事な目的は、その経験を同じ趣味を持つハムの仲間とも共有し、多くの皆さんにもそれを味わって頂き、アマチュア無線の発展に寄与することです。ですから決して閉鎖的な限られたクラブではありませんので、海外で運用計画のある方、やってみたい方、更にはちょっとだけでも話を聞いてみたい方、どなたでも構いませんのでお気軽にメンバーへ声をかけてみて下さい。きっとその先には新しいアマチュア無線の楽しみ方や、ワールドワイドな世界が広がって人生を豊かにしてくれると思います。



写真6. (左)JR4PMW のシャックにて河野俊一氏。(右)9M2KE のシャックにて河野俊一氏 (1999 年)。

■ 5. JA3DO・N2EUK・KD2YH 塩崎章氏

- アメリカ駐在時のアマチュア無線の思い出 -

この度はFBニュース100号おめでとうございます。私のアメリカ駐在時のN2EUKやKD2YHでの運用については「海外運用の先駆者達」その25で紹介して頂きましたが、それ以外のアメリカでの思い出をここに紹介させていただきます。

アメリカはニューヨーク駐在員として、1966年を皮切りに3回、ニューヨーク市で11年間勤務しておりました。考えてみると、高い年齢での海外駐在でしたので、JANETクラブに参加させていただいたときは、すでにメンバー中の最高齢でした。無線と関係ありませんが、1966年当時は、ベトナム戦争の真っ最中で、E-1ビザでの駐在員でも、徴兵制度に登録が要求され、セレクトティブサービスオフィスに出頭して、アメリカ国旗の下で、徴兵カードに書き込みさせられたのは、忘れることが出来ません。ランクは5Aの最低でしたが、顔はイエローと付記。

駐在中は、ライセンスを取得出来るようになったのが1973年ごろからですから、アンテナを上げて無線をやりだしたのは1983年頃からでした。一番の思い出はN2JA塚本さんやJA3AER荒川さんに、バーミューダのライセンスの取り方を教えていただき、KD2YH/VP9のライセンスを取って、Hamilton海岸で運用した事です。ポータブル機は持っていなかったのが、JA1PIG白井さんからお借りした単一乾電池8個内蔵のポータブル機で、ミニパワーながらビーチに立てたワイヤーDPで、アメリカ本土とQSO出来たものです。



写真7. (左)KD2YH 塩崎章氏と、(中央)そのQSLカード。(右)塩崎氏のバーミューダの免許状。

■ 6. JA1BRK・W1BRK・DU1ZV 米村太刀夫氏

この歳となると記憶はまばらになり、つい数時間まえのことを思い出すのに苦労したりします。最近、高校の後輩でアマチュア無線の弟子であった人物が、アメリカ・サンディエゴから夫婦共々日本に帰国しました。彼は昔のことを良く覚えていて、それを話すのでびっくりしています。楽しい思い出話は尽きません。昔のお話をいたします。それは私が1957年に旧2アマ試験に合格してJA1BRK局を開局した前年か前々年だったと記憶します。私の義兄は当時日立製作所戸塚工場の研究所に勤務しており、無線関係で様々な指導を受けました。あるとき義兄に連れられて秋葉原に行った時です。私も当時しばしば秋葉原には電子部品やシャーシ等の工作に必要なアルミ材料を購入に行っていました。JR(当時は国電)高架下にあるラジオデパート一階にジャンク屋があり、主にアメリカの軍用無線機の部品を商う店がありました。ここにはアメリカ軍放出の新品部品が完全な防湿の袋に入ったまま売られていました。それから、何かの軍用無線機を解体した部品とか、我々にとってなじみのBC-610の終段コイルは対応周波数帯に分かれて様々あり、はしごフィーダーのアンテナ・カップラーを製作したものです。義兄はそのジャンク屋となじみがあるようで、店の主人は「弟様でございますか、何か欲しいモノがありますか?」そこで私は両端にM型(USではどう言うわけかUHFと呼ばれる)コネクターが取り付けられている長さ約10mのRG-8Uケーブルが入った密閉防湿袋を指さしますと「どうぞお持ち下さい。お兄様にはいつもお世話になっておりますので代金は無用です」とのこと。これは後で分かったのですが、当時、日立はBC-1000の国産化を防衛関係から命じられており、想像するにBC-1000の実機を入手したかったのでしょう。BC-1000は40～48メガのFM送受信機で、歩兵用マンパックラジオでした。これに使われていた小型の多連バリコンが、ジャンクパーツとして出回ってもおりました。防衛関係を経由してアメリカから渡された資料が日立に届いていたのですが、実物はあっても実機をもとに図面に落とすには分解、切断が必要だったのでしょう。そこで、そのジャンク屋さんのルートで何台かのBC-1000を入手したようです。闇ルートだったのでしょう。私は以前、コリンズが初めてアマチュア用受信機にメカニカル・フィルターを装着した75A-3を所有したことがありました。1メガ幅をカバーするPTOの周波数直線性が劣化していましたが、そのジャンク屋に新品があり、交換しました。また内部にナローバンドFM受信用のサブシャーシが挿せる場所があり、これをプロダクト検波に改造してSSBが快適に受信できておりました。この新品未開封のFMアダプターもここで入手したと記憶します。義兄は長浜良三、日立電子の社長在任中にガンでSKとなりました。BC-1000の件をローカルの故JA1GV岸OMに話しますと、某電気メーカーはF-86戦闘機に搭載されていた「敵味方識別装置」の入手に奔走していたというエピソードを教えてくださいました。遠い昔のお話です。



写真8. (左)JA1BRKのオフィス兼無線室にて米村太刀夫氏と、(右)そのQSLカード。

■ 7. JA1PIG・W2HS 白井五郎氏

小学生の時 NHK テレビで JA1CYA 須藤典子さんの番組を見てアマチュア無線を志し、電信級免許をとった高校生から約 60 年間アマチュア無線を続けています。この間、埼玉県の独身寮を振り出しに、南米スリナム、ニューヨーク 2 回、パナマなど 13 回の引越しをしました。社宅がほとんどでしたが、どんな場所でもアンテナを建て無線を続けました。この中で 1976 年から 5 年間の南米スリナムが、仕事もアマチュア無線も最もアクティブで醍醐味を知った時期で、駐在の終わるころに偶然ニューヨークで産声を上げたばかりの JANET の信号を聞き、その後思いもよらないニューヨーク駐在となって JANET の皆さんと EYEBALL や JANET のオンエアミーティングにも毎週参加できました。JANET メンバーは国連のクラブ局 4U1UN にも自由に入れる特権も得て、週末はよく 4U1UN に集まって運用したり、国連ビル近くのタイレストランで EYEBALL QSO を楽しみました。その後、私のアマチュア無線は JANET 中心となっています。JANET のメンバーと楽に QSO が出来る様にと、現在は横須賀観音崎の丘の上に、遠隔無線機を設置して、皆さんと毎週末楽しく QSO しています。N2JA から始まり現在の W6OPQ まで歴代ネットコントロール局は、個性的で味のある素晴らしい人達にたすきが渡され続けています。日本語が母語であることや、日本語を話し外国と関係ある人達の集まりである JANET、日本語で QSO 出来ることは楽しいばかりでなく、逆境にあっても勇気がもらえます。今は太陽活動が低迷期ですが、かつての様に一度に世界の各地の JANET メンバーが聞こえる日も来るに違いありません。これからも私のハムライフは JANET 中心でしょう。



写真9. (左) 白井五郎氏のスリナム生まれの子どもさんが描いた JANET NEWS 8 号の表紙。(中央) 国連本部の屋上にて左から、JS1DLC 荒川謙一郎氏、JA1PIG 白井五郎氏、N2ATF 小林巖氏。(右) 国連本部局 4U1UN の無線設備をメンテナンス中の JA1PIG 白井五郎氏。

■ 8. JE1BQE・JD1B00 根日屋英之氏

私は生まれも育ちも、東京・秋葉原なので、アマチュア無線をやるべくして生まれてきたのではと感じることもあります。自宅の近所には、土地柄からか、父の友人にもラヂオを組み立てることが好きだという OM が多く、まず最初に感じたことは、ラヂオが好きなたちは、年齢や職業などは関係なく、人と人が同じ興味で話し合える、居心地の良い場所だと子供心に感じ、1971 年にアマチュア無線局 JE1BQE を開局しました。私は 46 歳から、会社での仕事と別に大学の非常勤講師として、無線工学やアンテナ工学を教えるようになりましたが、これも父が「神田の電機大(東京電機大学)・・・」とよく言っていたことが頭に残っていたのか、その神田の電機大で講義を始めました。最近でも、私が講義をしていた大学(東京電機大学、東京大学、日本大学、韓国の忠南国立大学)での講義以外の時間は、教師と生徒の関係を忘れ、いろいろ話し合える若いアマチュア無線仲間がいる環境も、アマチュア無線を続けていて良かったと思える経験の一つです。

2021 年で、私も JE1BQE を開局して、ちょうど 50 年が経ちました。半世紀の長い間アマチュア無線を続けていてよかったことは、海外に駐在しておられた、いろいろな職業のアマチュア無線家がメンバーになられている JANET に、早い時期(1980 年代始め)から仲間に入れていただいたことです。私の最初の海外からのアマチュア無線の運用は、1976 年の西ドイツから JE1BQE/DL でした。ここでも年齢を超え、また、その方々が社会的に地位の高い方でも、友人として対等に接して下さいました。いつも東京のビル群の中から、弱い電波を出して参加している JANET のロールコールも、海外から JANET メンバーが来られると開催される飲み会 JANNET も、私の人生の中での大きな楽しみです。

家族では、妻(JS1HNM)と実弟(JF1LVQ)がアマチュア無線を楽しんでいます。JANET メンバー以外で、海外の親しいハムの友人は、アメリカ合衆国に多いのですが、その他、ドイツの DF5FJ, Bernhard Thiem さん <http://je1bqe.web.fc2.com/page08dl.html> と、韓国の HL1LUA, Jinho Kim さん <http://je1bqe.web.fc2.com/page08hl.html> も家族ぐるみの友人です。今後も JANET のメンバーとして、皆様と末永くお付き合いが続くことを願っています。



写真 10. (左)JE1BQE のシャックにて根日屋英之氏と、(右)根日屋氏の JANET クラブ・創立メンバーの証。

■ 9. JG1GWL・KE6QX・VE3KSJ 杉本賢治氏

N2JA 塚本さんのご尽力で JANET クラブが始まったのは確かですが、私にとっては、塚本さんはアマチュア無線を始めるきっかけを下さった恩人でもあります。初めて NY でお目に懸かったのは仕事のためでしたが、そのときにハムの楽しさを教えていただき、帰ってただちに勉強を始め免許をとりました。日本の免許の次はアメリカの免許をとって JANET に加えてもらいたいと考えたころ、これも出張先で KW6A 大井さんにロングビーチの FCC で試験があると教わり、大井さんに会場に連れて行ってもらいました。頼りにしたのは塚本さんが書かれた「FCC 受験ガイド」と大井さんにお借りした問題集でしたが、運よく KE6QX をもらうことができました。KD6IH, Zen さんこと山本さんや KB8VA, Sumiko さんによるネットにも当時はよくチェックインして、ぞんぶんに JANET ライフを楽しませてもらいました。人生をととも豊かにしてくださった JANET の皆さまに心から感謝申し上げます。

JANET NEWS も忘れられない記録です。N2JA 塚本さんの XYL, Kaoru さんが描かれた表紙と文中の挿絵が実に可愛くて、味わい深い会報でした。N2ATF 小林さんによる会員名簿だけがコンピュータによる制作で、会員の報告はすべて手書きで両面印刷という、編集がさぞかし大変だろうと想像できる力作集でした。無線では聞けない各地からの便りを読むのが楽しくて、届くたびにわくわくして読んだものです。N2ATT 荒川さんが CQ 誌に連載を始められた JANET NEWS のコラムが数か月分まとめて会報で読めるようになったのも、CQ 誌が届かない方々には嬉しい読み物ではなかったでしょうか。その頃のことをご存じない方もいらっしゃると思いますので、いくつかの表紙を紹介します。JANET がいつまでも続くことを願うと共に、100 号を迎えた FB ニュースもいつまでも続くことを願っています。



写真 11. (左) 東京ハムフェア 2018 の JANET ブースにて JG1GWL 杉本賢治氏 (左端)。 (右) JANET NEWS 2 号と 3 号の表紙。

■ 10. JK1PZZ・KG20 嶋田和人氏

- 引越し人生終了 -

1980年にN2JA 塚本さんのFlushing, NYCのお宅にお邪魔し、マンハッタンのFCC事務所で受験してKG20を貰いました。塚本さんのFCC情報は雑誌に載っていて、「そのうちライセンス取りたいなあ」と思っていました。そしたらクラブ局JR1ZTTに社会人修士でいらした故小林正和さんが通産省からNYCに駐在された際にex. EIAJ@NYCの代表だった塚本さんと親しいと分かり、塚本さんの自宅へお邪魔していろいろ伺いKG20が取れました。学生だったので引き続き広島さんのPY2ZTHシャックも訪問。行けるか塚本さんに電話して頂いたら「その日は出張だけど訪問ぜひどうぞ」ということでリグだけ拝見しました。

この文を書くのに、懐かしいネコのイラスト表紙の古いJANET News #5を見たら自分の寄稿があり、すっかり忘れていた事も書いてあってびっくり。1986年に再度塚本さん宅にお邪魔したら「息子がいじらないように危険なDrakeリグは収納中」でした。私の下宿の庭に置いたルーフタワーではJANET参加がぎりぎりでしたが、その後は引越しまいでHFは無理でeye-ballのみの会員でした。仕事でせっかくHouston, TXのNASA Johnson Space Center ARC、W5RRRに入れたのですが、1995年はあまりに忙しくてネットに出られたのが一回だけ。広い芝生に建った80footタワーの14MHzフルサイズ4エレ八木で、とても強くJAに入っていたそうです。2006-2010の滞在ではQRVを楽しみにしていたのにNASA職員のレクリエーション用の建物自体の建て直しでシャックが消滅。これまた一回しかJANET QRVができてなく残念でした。でも、ボーイスカウトのJamboree-on-the-Airを手伝えたのが楽しかったです。日本に帰る直前にシャックが再建され、アンテナも寄付されたTH-7DXにリグはHF用3卓(タワー60ftと80ft)、V/UHF用2卓でももちろんARISS衛星通信対応の陣容です。このところ宇宙飛行士になる前からハムだった人がいなくなってしまう、その他職員のアクティブな人は自宅でQRVするのでクラブ局に行くと誰もいないことが多かったです。非職員の会員が一番アクティブでした。

私は、本職は定年にして、つくば市に自宅とささやかなタワーを建て、2014年からようやく電波でJANETにまた参加できるようになりました。ネットは14.310MHzがまあまあ、21.370MHzはまだ底辺コンディションですが、7.130MHzの丸さんW6OPQが安定して強くてFBです。丸さんの所に一度お邪魔しましたが、高級住宅地ではあるものの、山の手で、道路が日本の山道なみに細く、夜なら怖いでしょう。シリコンバレーを見下ろしちゃうのでQRN、YBと開ける時刻でQRM、と40mの受信は大変そうです。訪問した時もLogger、メール、メンバーリスト、伝搬サイトと4画面を駆使されていて驚きましたが、今はこれらに加えてChat、Zoomですね。夕方と早朝から毎週NC有難うございます。



写真 12. (左)NASAのW5RRRを運用する嶋田和人氏、(右)N2JA 塚本葵氏を東京に迎えるの歓迎会(2013年)。

■ 11. JH30II・AJ1A・VE2GCO, Chuck 中村氏

JANET に深くかかわった私のハム歴を、時系列で紹介させていただきます。

1972: VE2 に渡航、Japan Radio Centre というオーディオ店で、街唯一のパーツ屋 Payette Radio のことを聞き、そこでカナダライセンスマニュアルを買う。日本の免許の翻訳証明を日本国領事館でとり、カナダ通信局に行くも運用許可ならず。1974: 地元の無線クラブミーティングに出席、会長の VE2AS が通信局の責任者は融通きかない人だとコメント、つまり柔軟化の可能性もあると認識した。1975: カレッジのカウンセリング部に有名な DXer(VE2DCW) が就任。大学のクラブ局 VE2UN の免許人ということで通信局宛に Recommendation を書いてくれる。1976: そのレターを持って通信局へいくと、若い職員が日本と相互運用協定が存在すると勘違いして当該クラブ局の運用を即刻許可、CJ2UN 運用開始。後日あれは誤認だったとして暫定許可に変更。塚本さんがアメリカで WB2ZRQ 免許取得されたことを CQ 誌で知り、Conditional 級 (当時あった遠隔地で受験できる General 級相当) の受験を FCC に申し込むが、当該等級は直前に廃止になったと却下される。1977: ボストンに飛び General 級を受験。帰りに NYC の Grand Central Radio で Drake TR-2 (トリオ TR2200G 相当) と Touchtone マイクを買い autopatch を堪能。FCC 免許が郵送されてきてカナダ通信局に相互運用許可を申請、その場で許可。ローカルの Ham fest で中古 Drake TR-3 を買い、オンボロアパートの屋上に洗濯物用ワイヤーでマルチバンドダイポールをあげる。WB1EZI/VE2 運用開始。1978: リグを Atlas210X に買い替え ZF2BX, WB1EZI/KP2 運用。VE2FRG/FRF 高部さんと初対面、ご馳走になる。1979: 塚本さん N2JA が出張で VE2 に来られ初対面 (投宿されたホテルからウチまで歩いて 5 分以内)。日曜日だったので、当時始まっていた 21.360 の JANET が VE2 ではスキップして入感しないことを当シャックで確認された。よって 21MHz ネットのすぐ後に 7MHz 東海岸 JANET を作って頂き毎週 check-in できるようになる。JANET 創設前に名簿が配送され、その後ライセンスマニュアルというか、どの虎の巻が一番良いかの情報を頂く。それにより 1980 年 1 月 2 日、ワシントン DC を観光したついでに Extra を受験。合格した Interim License を持ってスミソニアンの特設局 NN3SI を運用。コールは AJ1A に。一方、カナダでも外国人が受験できるようになったので受験し、VE2GCO を開局 (この局免は今も終身有効)。1980: 夏、帰国の旅路で N2JA 宅に泊めてもらい、次の日一緒に JANET NEWS(1 号?) を印刷した。また、JL-005 便をアンカレッジで降り、酒村さん (KL7GX/NL7T) 宅で、前日釣ってきたという豪勢なサーモンステーキを頂く。その折運用させて頂き AJ1A/KL7 で N2JA と QSO。1981-83: 毎年夏、晴海の JANET ブースで皆さんとお会いできた。1983: VE2 を再訪する際また N2JA 宅に泊めてもらい N2CAO 服部さんと出会う。N2JA first harmonics がキーボードを叩いていて second harmonics 出現が間近であった。



写真 13. (左)WB1EZI/VE2 のシャックにて Chuck 中村氏 (1977 年)。 (右)New York の日本料理店にて、左から N2ATT 荒川氏、N2JA 塚本氏、N2CWO 吉原氏、N2AIR 岩倉氏、AJ1A, Chuck 中村氏、N2CAO 服部氏 (1983 年)。

■ 12. JA7AUM・W2YT 石戸谷正晴氏

-JANET の思い出-

JANET のメンバーになって良かったのは、いろいろな人と出会えたという事であった。アメリカに滞在中は、仕事がない時は無線をやっているかゴルフをしているかであり、その中での思い出として2枚の写真を紹介します。1枚目は Ridgewood, NJ の私の家の裏庭にルーフトワーを立てた時、カリフォルニアから NJ に来られていた KD6IH の善さんが、N2ATF の小林さんや JANET の皆さんと一緒に手伝いに来てくれた時の写真で、これが私の DX の始まりであった。2枚目は K2VZ の岩瀬さんのお宅で、JANET の皆さんとバーベキューパーティをした時の写真で、今見ると皆さん若いですね。子どもさん達も大勢来ていたが、今では皆さん立派な大人になっているでしょう。当時 JANET アイボールミーティングが何度かあった。そのうちの一つのミーティング用として皆さんから短信をもらい、一冊の冊子にしようという話があった。それを N2ATF 小林さんが集め校正した。そのプリントを私が担当した。集まったものを小林さんから受け取り、毎日仕事が終わったあとコピーをし、それを小林さん宅へ届けそれを冊子にして、ミーティングの時に小林さんが皆さんに配ったと思う。



写真 14. (左)JA7AUM のシャックにて石戸谷正晴氏。(中央)W2YT 石戸谷氏の裏庭に、ルーフトワーを立てるため手伝いに駆けつけた JANET のメンバー達。(右)K2VZ 岩瀬氏のバックヤードで BBQ を楽しんだ JANET のメンバーとその家族達 (1988 年)。

VE3PXD 福間さんには和文 CW でお世話になった。毎週 JANET の前後和文 CW の練習の相手をしてもらった。お陰様で一級に合格する事が出来た。又、福間さんと VE3TKW 金子さんと NY 州の Rochester のハムフェストでアイボールをした。雨降りの中でのハムフェストで寒かったが、夕食を一緒にして楽しいひと時を過ごすことが出来た。その時、コンピュータ用のマイクを何百円かで買ったのを、今でもまだ使っている。まだまだ懐かしい思い出が沢山ありますが、いつか又皆さんとお会い出来ることを願っております。

■ 13. N2JA・JA1ANE 塚本葵氏

-JANET と私-

JANET は海外で生活をしている日本人ハムグループ。海外に飛び出しそこで無線をやっている仲間たちというのが原則です。留学や駐在、活躍の場を海外に求めて免許を取得した人もいるし、外国人と結婚して海外での生活をした人、日系人もいます。遠洋航路や世界をヨットで航海したりした人もいて、みな海外で活躍し日本との強い結びつきを持つというのが共通で仲間になっていったと言えましょう。日本に帰国されたメンバーも多いが、海外で苦労した経験から仲間の繋がりとなって今につながっているのでしょう。地域や社会環境は違ってても外国で暮らしているというのは緊張を伴うものです。そんな中で、趣味を同じくする仲間の声が聞けるのは癒しになるものです。日本人だぞ、負けないぞと悩んだ経験もあったりして、説明しなくてもわかるよと聞いてくれる仲間でもあります。通じ合う何かがあるのですね。会えて良かったと思える友人も少なくありません。JANET はそんな出会いでもありました。JANET に出会えたのは何にも変えられない大切な宝です。JANET はただの無線クラブではないと思っています。JANET は生活の一部なのです。

人間が無線を使い出してそれほど経つ訳ではありません。無線はどの国でもその国の免許事項となっています。スマホのように誰でも使える時代が来るかも知れないが、少なくともアマチュア無線の世界では免許取得が必要です。私が渡米したのは 1969 年ですが、スターの SR700 を唯一の引っ越し荷物として、シアトルの W7UDH, Dick のお宅に一泊したのが最初。NY に着き、ペンキの剥がれたアパートの窓にアンテナの架線を垂らし W2 が入ったのに感激。免許が下りるメドは立たず、ヒースキットを組み立てたりしていました。数年経ち WB2AQC, George Pataki と知り合ったのは何かの縁かもしれません。ルーマニアからの移民で CBS のエンジニア。市民権を取得しアクティブにオンエアしていて、同じように免許の取れない若い外国人を招待してくれました。後の八重洲 USA の丸山さんもその一員でした。George は外国人がライセンスを取れない状況に、ハムで大物議員の Barry Goldwater と連携し、積極的に実現の為奔走してくれました。彼は 2014 年に他界したが、その弔文に記されています。Goldwater 上院議員は、外国からの航空機の通信士が外国性排除の為に免許が取れないのは不都合ということで、FCC 受験の条件となっていた外国性排除の状況を撤廃しました。ARRL のプリテンで速報が流され、当時は毎週 FCC の事務所で試験が行われていたのが即時受験しました。FCC の事務所ではそのことを知らず最初拒否されましたが、本省と交渉してもらい受験が認められました。WB2ZRQ の誕生、渡米から 5 年が経過、1975 年の事でした。後の N2ATF 小林 OM とはハムフェストでお会いしていたが、免許を取られたのは後ほどで、最初の在米日本人との QSO は K2VZ 岩瀬 OM で半年ぐらい経過していました。

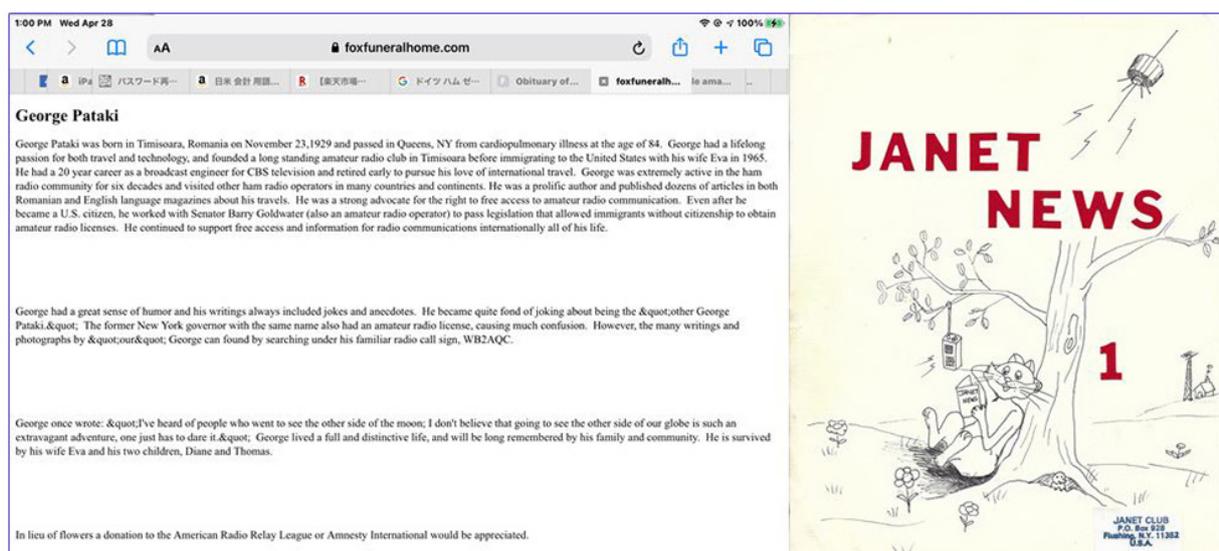


写真 15. (左)George Pataki 氏の弔文 (2014 年)。(右)JANET NEWS 第 1 号の表紙 (1981 年)。

その後NYを中心に日本人ハムが増え、ローカルでのパーティなど Eye ball QSO が頻繁に行われ、JANET クラブ誕生のきっかけになりました。JANET の創立は 1979 年 3 月に JA1ANG 米田 OM がニューヨークに来られ、音頭をとって頂いた時となっていますが、実際の活動は同時進行しており、各自がやりたいことを実施していったところに JANET らしさがあると言えます。米田 OM は AMSAT の活躍などで国際的にも知られた著名なハムであるとともに、帰国子女の大先輩でもあり国際的に活躍する日本人の有るべき姿を示してくれました。OM に無線クラブの設立について悩んでいると相談したところ、任せておいてと言って頂き JANET の設立につながることができました。といっても JANET を作って行ったのは個々のメンバーであることには変わりありません。米国において初めての日本人ハムと言っても、それぞれの経験もローカルのクラブで活躍していたベテランも居れば日本での経験も多様です。日本の駐在員もいれば独立して起業された方、米企業のベテラン社員と多様でしたが、皆意気に燃えていたと思います。アマチュア無線の良いところは人の心をつなぐという効果もあります。兎に角できる事からしようということで、だれかがアンテナを上げるといえば手伝ったり、家族ぐるみでホームパーティのように場が広がっていきました。オンエアのミーティングを開き、暇さえあれば顔を揃えていました。私は日本人のハムを見つけると連絡を取り合い、ローカルのミーティングに参加、メンバーが増えてきました。小林 OM のような実力派は技術面、運用面でのハムとしての活動に力をいれ、新人へのアドバイスなど個々のメンバーの援助などが広がり、交際の輪は家族同士の輪に広がり、家族同士の仲間に広がっていきました。今でも当時の仲間の XYL さんに聞くと、当時のメンバーのことを良く覚えておられます。集まったメンバーは本業も多様でそれぞれの分野で貴重な経験をされた方も少なくなく、他人に命令されて動くのを良しとせず、自分で行動するというのが多かったかもしれません。それと共に成果を挙げるには何が重要かということを知った人たちが揃っていたように思います。その特徴をもっとも良く発揮できたのは 4U1UN プロジェクトだったと思いますが、それについては既に紹介済みと思われるのでそちらを参照してください。

JANET は誰か一人が動かしたのではなく多様な人材が多様な活動をしたユニークなチームだったと思います。JANET の活動を知らしめた功績者を忘れてはいけません。そのお一人が一貫して広報を担当された JA3AER 荒川 OM です。JANET もそうですが海外で活躍するハムの紹介シリーズは今に続き、FB ニュースでも「海外運用の先駆者達」と題した連載記事を掲載してくれていて、我々の励みになっています。感謝です。



写真 16. (左)JA1ANG 米田治雄氏を NY に迎えて N2JA 塚本葵氏 (前列中央) 邸での会合 (1979 年)。(右) 歓談中の N2ATT 荒川泰蔵氏と JA1ANG 米田治雄氏 (1979 年)。

当時手書きで発行した JANET NEWS も同じノリで文字通りの手作りで、メンバーが手書きで送ってくるのを貼り付け、XYL が表紙絵を書き、集まれるメンバーが作業場に集まってコピーから発送までやりました。これもチームワークがあって初めてできたと言えます。FCC 受験ガイドも同じノリで、FCC の試験は日本でやれば容易に答えられるレベルで、モールスコードに実際のコールが出てきたのにびっくり。法規だけは若干のポイントがあったと思えたので、これを読んでおいてくれれば合格するとの内容にしました。合格したという人から連絡をもらい常に新しい内容になるようアップデート、同じ内容のものはなかったと思います。JANET NEWS もそうですが、手書きとカットは XYL に頼みました。その各ページは各自の思いが込められていますが、そのお一人 EP2TY 矢井 OM からも寄稿を頂いていました。

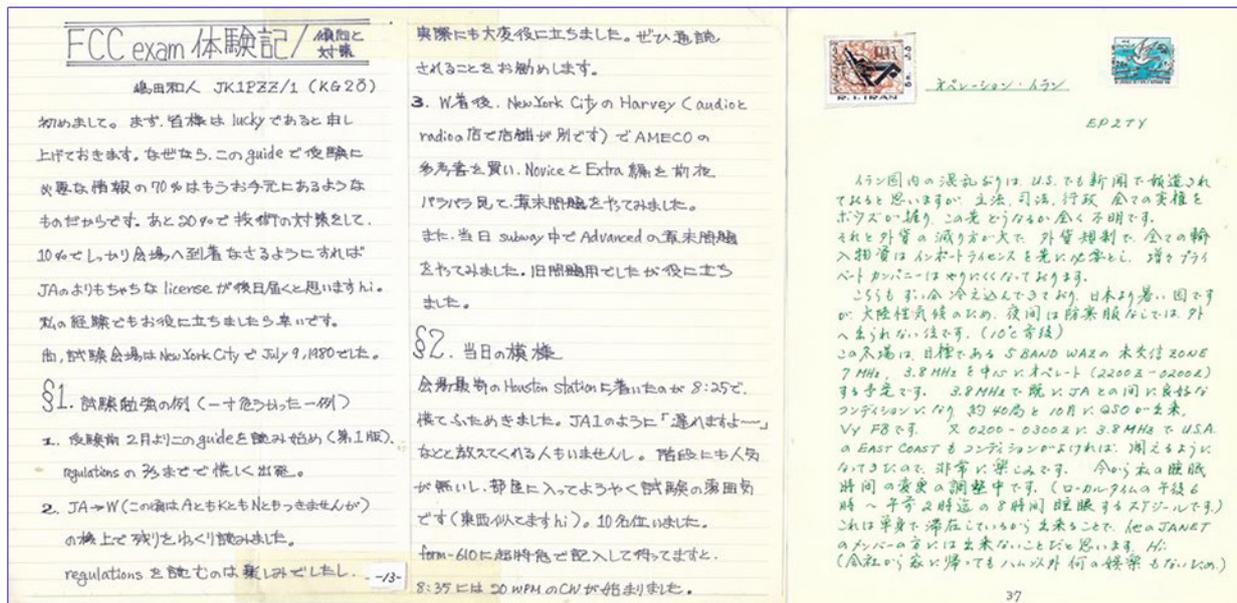


写真 17. (左)FCC 受験ガイドに掲載された JK1PZZ 嶋田和人氏の「FCC exam 体験記」の記事。(右)JANET NEWS 第 3 号 (1982 年)に掲載された EP2TY(JA3AEV) 矢井俊雄氏の「オペレーション・イラン」の記事。

名簿作りも当初は私の手作りで、コンピュータの専門家でもあった小林 OM が、JANET 独特のスタイルでオリジナルのプログラムを書いてくれ、それを私が下手なホームページ janetclub.com に張り付けていきました。小さなことですがセキュリティ問題が話題になっており、OM 的確な指導のおかげでトラブルを回避できました。名簿は言ってみればクラブの基幹であり、その後もなんとか維持することができました。JANET の活動の基本はメンバー間の連絡ですが、それだけではありません。海上移動、特にヨットでの長距離航海は、今はサテライト依存でしょうが、ハムの役割も多く、思い出に残る人も少なくありません。家族ぐるみでヨット航海を試みた内海家族 JH2PTR のパル号は NY に着いた時、JANET のメンバーで沿岸からおにぎりを渡しました。後に清水でアイボールを果した時の写真です <http://www.mamoru.us/shimizu.html>。もっとも中心的に活動をされたのは W6ZEN/KD6IH 山本 OM です。特に JR3JJE 堀江 OM のマーメイド号が座礁し、カナダコーストガードと緊急連絡を取った時は、サンノゼの山本 OM を訪問中であつたので忘れることができません。



写真 18. (左)西宮ヨットハーバーで新しいマーメイド号を背景に、左から JR3JJE 堀江謙一氏、JF3EPU 中川務氏、JA3AER 荒川泰蔵氏、JA3DO 塩崎章氏、JA3GMI 竹原浩二氏 (2002 年)。(右)東京ハムフェアで講演後 JANET/JAIG のブースに立ち寄られた JR3JJE 堀江謙一氏 (前列中央)、その右は JARL 会長 JA1AN 原昌三氏 (2004 年)。

海外での運用について、米国での運用は Legal になりましたが、JANET の運用は日本語ということもあり、クレームがつかないよう最新の注意を払いました。JANET は特定の国に属しないとの立場であるが、ARRL とも問題はないか打ち合わせをおこない、FCC にも確認しました。その結果 FCC 規則に抵触しない内容であれば日本語でも問題ない、ただし ID は英語で行うことということで、現在も ID はもちろん必要に応じ日本語のネットであることを理解してもらうよう気配りをしています。FCC 免許から外国性排除の条項はなくなったが、第三国での運用はその市民が属する国の政府が交渉して運用できるようにするのが筋というもの、国の政府はその市民が差別に合わないように守る義務が有ります。外国にいても日本国市民であり、日本の相互協定が限定的なのは納得がいきません。米国の免許で他国の免許をとるのがいまだに習慣化されていますが、日本政府に頑張ってもらいたいものです。望ましいのは国際的に統一化した免許制度でしょう。日米相互運用協定の時は、交渉は国務省と外務省で、実務面では電波管理の政府組織で、日本はそこに実際の受益組織である TIARA が介入しました。そこで非公式に、アマチュア無線の実務の専門家ということで、立ち合わせてもらいました。

JANET のネットは海外に散在するメンバーをつなげる重要なプロジェクトであり、特に日本へ帰国するメンバーが増えグローバルなネットをどう維持するかが大きな課題になりました。最初は NY から N2JA が NC を勤めましたが、KD6IH(後に W6ZEN) 山本 OM が、東海岸で面白いことをやっているのがいる。やらせて欲しいとの希望があり、山本 OM の NC が始まりました。OM はネットのある土曜日は家族も外出はあきらめるほどで、JANET 流 NC の基盤を作り上げました。その後 KB8VA スナイダー・スミコさんもツーソンから親しみやすい性格で JANET を牽引、西海岸が JANET の重要な基地となりました。N2JA から KD6IH、KB8VA、JR1CNO、W6ZEN、そして W6OPQ が歴代の NC を努めています。コンディションの良い時は 6 大陸同時 QSO というのが有ったと思います。広域の場合は NC プラス別地域のサポートが入り、連携プレーまでこなしました。コンディションが低下し、ライフスタイルが変化してビッグステーションが減少、その対応が課題になってきています。今はコロナ感染で世界のグローバル化にプレーキがかかっているようですが、こんな時こそ各地にいる日本のハートを持った人が連携し合う意味があるのではと思っています。ハードルは高いですが、アマチュアスピリットで乗り越えられないかと思っています。

■ 14. JA3AER・N2ATT・GWORTA 荒川泰蔵

- エピローグ -

JH1HRJ 大家万明氏がメンバーに呼びかけて、応募のあった原稿を編集して寄稿されたこの記事、最後までご覧いただきまして有難うございました。JANET について良く知らなかった方にも、JANET の国際色豊かな多様性を感じ取って頂けたことと思います。今回ご応募頂いた JANET クラブの皆さん、そしてそれを編集して寄稿下さった JH1HRJ 大家万明氏、終盤の重要な時期に編集にご協力頂きの確かなアドバイスを頂いた JG1GWL 杉本賢治氏にお礼申し上げます。

フォロワーとして毎月「FB ニュース」をご覧頂いている皆さん、ご愛読有難うございます。今回で第 100 号を迎えましたが、創刊号からの連載記事「海外運用の先駆者達」も、読者の皆様方に支えられ 100 回目を迎えました。去る 5 月に読者から寄せられたメッセージの一部を紹介させていただきます。

- ・ **JJ3PRT:** FB ニュースの情報有難うございます。HB0/HE9LEY を運用された JA1LZR 岩倉さんは 1967 年以來の知り合いです。HB0/HE9LEY では多くの JA が貴重な HB0 をゲットすることができました。
- ・ **JA3USA:** JARL から今日届いた QSL カードに XU7AKJ 木村さんのカードがあり、その直後に拝見した記事に 1995 年にトルコでの木村さんの記事があつて、その偶然に驚きました。世の中は狭いですね。
- ・ **DF2CW:** 今回ご紹介いただいた JA1LZR の岩倉さんが HB9 に滞在中に QSO したことが有り大変懐かしく思いました。もう 26 年も前の話になりますね。荒川さんのご努力で昔の友に再会できてうれしく思います。今回も貴重な私達の歴史を蘇らせていただき有難うございました。
- ・ **JG1GWL:** 今月も OM,YL 皆さまの各地でのご活躍を知ることができました。現役の皆さまが仕事のかたわら、それぞれの土地で大いなる努力をされて免許を得て QRV されている事がよくわかります。
- ・ **W6OPQ:** 1995 年と言いますと、私はフィリピンから米国・アリゾナ州に移動した頃で、当時の自分のテリトリーが、日本と韓国を除く全世界でしたので、自社製品を担いで、米国各州、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、スペイン、ポルトガル、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイスの他、イスラエル、南アフリカなどにも出張したのですが、その頃は HAM 運用が頭になかったことが、今にして思えば残念です。
- ・ **JO3LZG:** 1995 年の JA3IG 葎谷さんの記事を拝読しました。阪神・淡路大震災の年ですね。私は大阪ドームへの出向 2 年目で基礎工事中でしたが、各社からの出向社員の安全確認に追われました。葎谷さんと荒川さん同年代の方が、同じ頃、同じ方面でご活躍だったのですね。
- ・ **JE1BQE:** 今回のヨーロッパ編を拝読し、過去の CQ 誌の荒川さんの「レクサム便り」を思い出していました。JR1KWR 大久保さんは 1970 年の夏に東京都中央区で開局されたとのこと、私は 1971 年 5 月の開局で、ほぼ同時期に歩いて行きあえる距離におられたことを知りました。FB ニュース 100 年記念号も楽しみにしております。

この連載記事は JANET クラブのメンバーを含む、海外で運用された多くの方々からの寄稿や情報提供により成り立っており、そのご寄稿や情報提供を頂きました皆様方にも、この機会に改めてお礼を申し上げます。また一方、その記事を掲載する為、貴重なスペースを提供頂き、サポート下さっている稲葉編集長はじめ、編集部の方々のスタッフの方々には、FB ニュース第 100 号のお祝いを申し上げますと共に、日頃のサポートにお礼申し上げます。